

人の数だけ、生き方がある。
自分らしい選択をしながら地域で輝く
皆さんを紹介します。

小学校をリノベーション 地域の皆が集まる場所に



【Profile】鶴田町出身。2011年にUターンして以降、リネン作家「KOMO」として活動を続ける傍ら、フリーペーパーの発行など鶴田町の情報を発信する地域実績もある。水元中央小学校の閉校をきっかけに一般社団法人もったいない研究所を設立し、2024年11月よりTSURUTA LABOを運営。

「存在しているだけで許される」 鶴田町で居場所づくり

鶴田町にある旧水元中央小学校は、2024年11月に「TSURUTA LABO（ツルタラボ）」という新たな場所として生まれ変わりました。築21年とまだ新しいその校舎を活かし、オープンから1年でたくさんの方々の出会いが生まれています。そんな場所をプロデュースするのが、一般社団法人もったいない研究所の代表を務める岡詩子さんです。

大学進学を機に東京へ上京した岡さんが地元・鶴田町に戻ったのは2011年のことでした。Uターンは前向きな理由ばかりではなかったのですが、いざ帰ってくると地元鶴田町の生活は都会とはまったく違っていました。「座るにも休むにもお金が必要だった東京と比べ、ここでは『存在しているだけで許される』ような感覚があって、そのことが少しずつ心と身体に馴染んでいきました」。

リネン素材を使ったハンドメイド製品の販売をしながら、地元の間近とともに自分たちが面白いと思う鶴田町を発信する「つるたプロジェクト」の活動にも取り組みました。「移り

住んできた人たちも含め、『鶴田って住んでみたらすごくいいよね』『暮らしやすいよね』という話が出るのが多くて。鶴田町のそういう部分を伝えたいと思い立ち、情報誌の発行やイベント開催など、できる人ができるときに続けてきた取り組みがつるたプロジェクトでした」。

廃校を、人と挑戦が集まる場所へ

岡さんにとって大きな転機となったのが、町の小学校の統廃合でした。「2019年あたりに、鶴田町にあった6つの小学校が統合して鶴田小学校1つになり、統合にあたって閉校する水元中央小学校の校舎を新たに活用する計画だということを知りました。それとは別なところで、Uターンしてから10年ほどで、たくさん知り合いが鶴田町に遊びに来てくれました。でも、せっかく鶴田に来てくれてるのに、その恩恵を受けられるのが自分の周りの限られた人になってしまうことがもったいないな思っていたんです。独自の経験や知識を持った方たちが地元にいるのに、その人たちを知ってもらう機会がないのももったいないと思っていて。閉校の話聞き、大きな場所があってそこに誰でも来れるようにしたら、自分の周りのすごい人たちをつなげる場所になるんじゃないかと。そういうことがワーツとつながって、そのために廃校を活用したい！と思っただけです」。

町の指定管理者として旧水元中央小学校の施設運営を担うべく準備を進め、一般社団法人を立ち上げた岡さん。現在は行政と協働しながら、民間ならではの柔軟な感覚を取り入れた施設運営を行っています。2025年11月で1周年を迎えたTSURUTA LABOは、1年間で3万人を超える来場者数、稼働率の高い貸しオフィスなど、反響は想像以上だったといいます。そうした施設運営は、使われなくなってしまう校舎の使い方の一つの事例として県内外から注目されています。

現在はTSURUTA LABOがどういう場所なのかを知ってもらうためにも毎月何かしらイベントを主催しているという岡さん。「施設の活用方法など、どんなことができるかイメージを膨らませてもらいたいです。理想としてはさまざまなイベントを持ち込んでほしい、いずれは開催したい人たちがサポートする事業に力を入れられたらと思っています」。また、モノの物々交換や図書室での本を紹介する取り組み、日常のちょっとしたお困りごとやお願いをTSURUTA LABO会員同士で解決できるクエスト掲示板の取り組みなど、交流できるような仕掛けもあります。

「もったいないから未来をつくる」 心の中に鶴田を想う人を増やしたい

「生きているうえで、毎日誰もが何かを決断しながら生きています。いくつかある選択肢の中から、良くなると思う方を選んでいく。それって言い換えると、これを選ばないのもったいないという感覚があると私は思っているんです」と岡さん。TSURUTA LABOの理念は、『もったいない』から未来をつくること。選ばれなかったものを仕方がなく救い上げるのではなく、「やりたい」と思った前向きな気持ちの連なりで未来をつくっていきこう、といった意味が込められています。

「鶴田町のことが心の中にずっとある人たちが世界中にいて、何かあった時に心を寄せてくれたり、年に何回か行こうと思ったり、最終的には住みたいと思ってくればすごく理想的です。鶴田町がみんなの心と頭の中に拡張していつてくれたら、地味ではありますが力強いなと思います」。

TSURUTA LABOは今日も、人と人を静かにつなぎながら、鶴田の未来を描いています。

(取材：鈴木 麻理奈)

